

■ 本文

あづま路の道の果てよりも、なほ奥つ方に生ひ出でたる人、〔①〕いかばかりかはあやしかりけむを、いかに思ひ始めけることにか、世の中に物語といふものあんなるを、〔②〕いかで見ばやと思ひつつ、〔③〕つれづれなる昼間、宵居などに、姉、継母などやうの人々の、その物語、かの物語、光源氏のあるやうなど、ところどころ語るを聞くに、〔④〕いとどゆかしさまされど、わが思ふままに、〔⑤〕そらにいかでか覚え語らむ。

いみじく〔⑥〕心もとなきままに、〔⑦〕等身に薬師仏を造りて、手洗ひなどして、人まにみそかに入りつつ、「〔⑧〕京に疾く上げ給ひて、物語の多く候ふなる、ある限り見せ給へ」と、〔⑨〕身を捨てて額をつき、祈り申すほどに、〔⑩〕十三になる年、上らむとて、九月三日門出して、いまたちといふ所に移る。

■ 設問（全22問）

1. 「あづま路の道の果てよりも、なほ奥つ方」とは、作者が育った土地を表している。これはおおよそ現在のどのあたりか。次から選びなさい。ア 東北地方（陸奥） イ 関東地方（上総国あたり） ウ 近畿地方 エ 九州地方
2. 傍線部①「いかばかりかはあやしかりけむ」について、次の小問に答えなさい。
 - (1) この部分を現代語訳しなさい。
 - (2) 「あやし」の意味として、ここで最も適当なものを選びなさい。ア 不思議だ イ 身分が低い・粗野だ ウ 美しい エ 疑わしい
3. 作者が「物語」をどうしても読みたいと思うようになったきっかけは何か。本文に即して説明しなさい。
4. 本文中の「あんなる」について、次の小問に答えなさい。
 - (1) 「あんなる」は、もとはどのような語の形か。もとの形（もとになっている二語）を答えなさい。
 - (2) この「なる」は何の助動詞か。文法的意味（種類）を答えなさい。
5. 傍線部②「いかで見ばや」について、次の小問に答えなさい。
 - (1) 「ばや」の文法的意味（用法）を答えなさい。
 - (2) この部分を、主語を補って現代語訳しなさい。
6. 傍線部③「つれづれなる」について、次の小問に答えなさい。
 - (1) 終止形を答えなさい。
 - (2) 「つれづれなり」の意味を答えなさい。
7. 傍線部④「いとどゆかしさまされど」について、次の小問に答えなさい。
 - (1) 「いとど」の意味を答えなさい。

- (2) 「ゆかし」の意味として最も適当なものを選びなさい。ア 行きたい イ 知りたい・見たい ウ なつかしい エ おそろしい
8. 作者が物語の話を聞いて「いとどゆかしさまされど」と感じる一方で、もどかしく思っているのはなぜか。説明しなさい。
9. 傍線部⑤「そらにいかでか覚え語らむ」について、次の小問に答えなさい。
- (1) 「そらに」の意味を答えなさい。
- (2) この一文は、どのような気持ちを表しているか。「係助詞『か』のはたらき」にふれて説明しなさい。
10. 傍線部⑥「心もとなき」について、次の小問に答えなさい。
- (1) 終止形を答えなさい。
- (2) ここでの意味を答えなさい。
11. 傍線部⑦「等身に薬師仏を造りて」について、次の小問に答えなさい。
- (1) 「等身」とはどのような意味か、説明しなさい。
- (2) 作者が薬師仏を造ったのは、何を願うためか。本文に即して答えなさい。
12. 傍線部⑧「京に疾く上げ給ひて」について、次の小問に答えなさい。
- (1) 「疾く」の意味を答えなさい。
- (2) 「給ひ」は敬語である。敬語の種類（尊敬・謙譲・丁寧のいずれか）と、誰に対する敬意かを答えなさい。
- (3) この「」のせりふは、誰に向けて言ったものか。答えなさい。
13. 本文中の「候ふ」について、敬語の種類（尊敬・謙譲・丁寧のいずれか）を答えなさい。
14. 傍線部⑨「身を捨てて額をつき」について、次の小問に答えなさい。
- (1) 「額をつく」とはどのような動作か、説明しなさい。
- (2) 「身を捨てて」からは作者のどのような態度が読み取れるか、簡潔に答えなさい。
15. 傍線部⑩「十三になる年、上らむとて」について、次の小問に答えなさい。
- (1) 「上らむ」の「む」の文法的意味を答えなさい。
- (2) 「上る」とは、ここではどこへ行くことを指すか。具体的な地名で答えなさい。
16. 「九月三日門出して、いまたちといふ所に移る」とは、何のための行動か。本文全体の流れをふまえて答えなさい。
17. 本文中で、作者に物語の内容を語って聞かせた人物として挙げられているのは誰か。本文の言葉を使って二つ答えなさい。
18. 『更級日記』の作者は誰か。次から選びなさい。ア 清少納言 イ 紫式部 ウ 菅原孝標女 エ 藤原道綱母
19. 『更級日記』の文学史上の説明として、次の小問に答えなさい。
- (1) 『更級日記』のジャンル（種類）を、漢字で答えなさい。
- (2) 『更級日記』が成立したのは、おおよそどの時代か。答えなさい。
20. 次のうち、『更級日記』と同じ「日記文学」に分類される作品をすべて選びなさい。ア 土佐日記 イ 枕草子 ウ 蜻蛉日記 エ 大鏡 オ 和泉式部日記

21. この場面全体から読み取れる、少女時代の作者の人物像を、二十字程度で説明しなさい。

22. 本文の内容に合うものを、次からすべて選びなさい。

ア 作者は都で生まれ育ち、地方へ下ることになった。

イ 作者は、まだ読んだことのない物語に強い憧れをいだいていた。

ウ 作者は、薬師仏に祈ったことで、すぐに物語をすべて読むことができた。

エ 作者は、十三歳の年に都へ上ることになった。

オ 作者は、人に隠れてこっそりと薬師仏に祈った。